北海道内の国際協力・国際交流から　地域の活動

中学校での「国際理解、多文化」学習などの事例

北方圏センターは、地域の中学校などと連携して、諸外国の生活、文化、歴史についての学習の機会として「国際理解教室」を開催している。今回は、全校あげて取り組む札幌市立向陵中学校からの寄稿と、小樽市立塩谷中学校での開催の様子を紹介します。

〔Ⅰ〕札幌市立向陵中学校の総合的な学習について　～学年毎に「人とのかかわり」を学習～

札幌市立向陵中学校　教諭　千葉敏雄

現在、各学校で独自の取り組みとして行われている総合的な学習の時間ですが、札幌市立向陵中学校では、平成18年度よりカリキュラムを変更し、「人とのかかわり」をテーマに、各学年、生徒の発達状況にあわせた活動を行っています。人間関係の希薄化が問題視されている現在、同世代の中学生同士はもとより、異なる年齢や立場、職業、そして、外国の方々と、様々な人と関わることで、コミュニケーション能力を高め、より活動的・協力的な生徒の育成をめざし学習を進めています。

構成は、1学年においては「外国の方々との交流」、2学年においては、キャリア教育の面から「職場体験」、3学年においては、保育を中心に福祉の活動をくわえた「異年齢交流」と積み重ねていく活動となっています。では、昨年度の各学年の取り組みをご紹介します。

○第1学年

「外国の方々との交流」をテーマに外国人の方々を本校に招待し、様々な文化交流を行いました。国籍の異なる様々な国の方々をできる限りたくさん本校に招待し、言語だけに頼らず、ボディランゲージなど様々なコミュニケーション方法を生徒自らが模索し、交流を深めました。基本的なコンセプトとして、外国の文化を知ることよりも、日本人として日本の文化を発信することに重点を置き、外国の方々に日本の子どもの遊びや、昔からの行事を伝える活動に真剣に取り組みました。実際に、生徒が自ら作成した表やテロップ、道具などを用い、けん玉やコマなどの日本の子どもの古い遊びや、七夕、盆踊りなどの行事、餅つきや書道の体験など、多くの活動がおこなわれました。

この取り組みにおいて最も困難であった外国人の方にボランティアをお願いすることに際して、(社)北方圏センターの皆様に多大なるご協力をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。また、国際日本語学院の生徒の皆様や、国際交流プラザの方々、また地域に在住の外国人の方々にもご協力いただけましたことに感謝申し上げます。

早い年齢から、外国の方々と接する機会を持つことで、コミュニケーション能力の伸長を図るとともに、今後は、近年発展が著しいアジアの方々との交流にも力を入れていきたいと考えています。

○第2学年

キャリア教育の一環として「職場体験」を実施しました。様々な職種の企業・職場に生徒自らが赴き二日間にわたり職場体験をおこないました。実際にその職場の仕事に参加させていただくことにより、働くことの意味やコミュニケーション能力の必要性を実感するとともに、将来の職業選択について考える機会となったようです。北海道大学や図書館、美術館、幼稚園、保育園、老人福祉施設、商店、ホテルなど、市内数十ヵ所のご協力で活動することができました。